日農トップジンM水和剤

[チオファネートメチル水和剤]

農林水産省登録 第20976号

有効成分

チオファネートメチル…70.0%

性　　状 淡褐色水和性粉末　45μm以下

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）　危険物：-　有効年限：4年　包装：500g×20
商標： トップジンM®は日本曹達（株）の登録商標です。 RACコード：殺菌[1]

特長

- 浸透移行性に優れ、既に植物体に感染した病原菌に対しても効果を示す。
- 広範囲の作物および病害に適用があり使い易い。

効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、速やかに使いきる。
- 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合には、次の事項に注意する。
  1)内袋はぬれた手で触れない。
  2)外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、できるだけ速やかに使い切る。
  3)薬液の調製は容器内に所定量の水3分の1程度を入れた後、必要量の内袋を開封せずそのまま容器に投入する。その後容器内に水を定量まで加えた後よく攪拌する。
- ボルドー液との混用はさける。
- かんきつの貯蔵病害防除に使用する場合には、収穫前3週間以内〔かんきつ(みかんを除く）の場合には収穫前2～3週間の間〕に1回散布すると効果的である。
- 本剤をかんきつ（みかんを除く）の施設栽培には使用しない。
- りんごの腐らん病防除に対する本剤の使用は生育期における病菌の感染侵入阻止を目的として散布するので生育期の通年散布とする。
- ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意する。
- いちごに対して使用する場合には下記の注意を守る。
  1)萎黄病防除に使用する場合には下記の注意を守る。
  i)萎黄病多発地では本剤の浸漬処理、灌注処理のみでは効果が不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い、本剤処理との組合せで防除すると有効である。
  ii)灌注する場合は下記の注意を守る。
  a)土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので注意する。
  b)萎黄病は、土壌温度の高い時(20℃以上)に発生しやすいので、地温の高い仮植時期に処理する。
  c)土壌条件などによっては葉色が劣ったり、多少生育抑制のみられる場合もあるが、その後の生育や収量の影響は認められていない。
  iii)苗根部浸漬する場合は、浸漬時間が長く(所定時間以上)なると薬害(活着不良)を生じるおそれがあるので、処理時間を厳守する。
  2)うどんこ病防除に使用する場合は下記の注意を守る。
  i)株浸漬する場合は下記の注意を守る。

a)株冷蔵栽培いちごの定植時に、無病苗を得るため、冷蔵前に処理するものである。うどんこ病の発生まん延時の防除とは異なるので注意する。
b)浸漬処理薬液が葉裏まで十分付着するように薬液には展着剤を加用し、水洗した苗株を株全体がつかるように浸漬し、苗を薬液中で2〜3回上下にゆする。
c)本剤処理した苗株は、水洗せずに半乾きとした後、ビニール袋に入れ、慣行に従って冷蔵する。
d)冷蔵後、定植前の処理では、効果が劣ることがあるので、必ず冷蔵前に処理する。
ii)散布する場合は、葉及び果実に汚れを生じるおそれがあるので注意する。

- いちじくに対して灌注処理する場合は次の事項に注意する。
  1)1ヶ月間隔で使用することが望ましい。
  2)生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさける。
- 水稲の種子消毒に使用する場合は、下記の注意を守る。
  1)消毒後は水洗せずに浸種または播種する。
  2)浸漬処理薬液の温度はなるべく10℃以下をさける。
  3)籾と浸漬処理薬液の容量比は1：1以上とし、種籾はサラン網などの目のあらい袋を用い、薬液処理時によくゆする。
  4)低濃度(300〜500倍)長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1〜2回撹拌する。
  5)本剤処理を行った種子の浸種に当たっては次の注意を守る。
    i)薬剤処理した種籾は少なくとも数時間は放置して風乾後浸種する。
    ii)浸種は停滞水中で行う。
    iii)浴比は1：2とし、水の交換は原則として行わない。但し、液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水する。
  6)薬剤処理した種子は、食糧、飼料に使用しないよう注意する。
- れんこんに使用する場合、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- 麦の雪腐病防除に使用する場合、散布液量は10アール当り100リットルが標準である。なお、1回散布の場合にはなるべく根雪近くに行うと効果的である。
- 小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用する。
- チューリップの球根粉衣は植付前または貯蔵前に球根1kgに対し、本剤1gを均一に粉衣する。
- 本剤を大型散布機で使用する場合には、各散布機種の散布基準に従って実施する。
- 本剤は、連続使用によって一部の病害に耐性菌を生じ、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組み合せて、輪番で使用する。
- だいずの紫斑病に対しては、落花後〜若莢期に2〜3回散布する。
- だいずの紫斑病防除には種子消毒のみでは不十分なので、生育期の散布による防除と組合せて使用する。
- 果樹の白紋羽病に対し、灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去したのち、所定濃度の希釈液を1本当り成木では200〜300リットル、苗木では20〜30リットル灌注する。
- かんしょ、さといもの種いも消毒後は水洗せずに薬液が乾いてから植付ける。薬剤処理した種いもは食糧、飼料に使用しない。
- アスパラガスの茎枯病の防除は収穫打ち切り後、残茎を取り除き新しく萌芽した茎を対象とする。
- カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しない。また、使用後14日間は入水しない。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。また、桑に使用後3日間は蚕に桑葉を給餌しない。
- ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意を守る。
  1)専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。
  2)作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉する。できれば翌朝までとする。
- たばこの親床での処理は播種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布する。

- 本剤を使用した場合には、ベノミルを含む剤を使用しない。ただし、種子への処理、種籾への処理及び塗布処理は除く。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意する。眼に入った場合には直ちに水洗する。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らない。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>希釈倍数</th><th>使用液量</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">みかん</td><td>そうか病</td><td>30倍</td><td>8ℓ/10a</td><td>4～6月</td><td rowspan="4">5回以内</td><td>空中散布</td><td rowspan="3">8回以内(塗布は3回以内、散布、空中散布及び無人航空機散布は合計5回以内)</td></tr>
<tr><td>灰色かび病
そうか病</td><td>1000～1500倍</td><td rowspan="6">200～700ℓ/10a</td><td rowspan="6">収穫前日まで</td><td rowspan="5">散布</td></tr>
<tr><td>貯蔵病害（黒斑病）</td><td>2000倍</td></tr>
<tr><td rowspan="2">貯蔵病害(軸腐病)
貯蔵病害(青かび病)
貯蔵病害(緑かび病)</td><td rowspan="2">2000～3000倍</td></tr>
<tr><td rowspan="2">かんきつ(みかんを除く)</td><td rowspan="2">8回以内(塗布は3回以内、散布及び無人航空機散布は合計5回以内)</td></tr>
<tr><td>貯蔵病害（黒斑病）</td><td>2000倍</td><td rowspan="3">6回以内</td></tr>
<tr><td rowspan="3">りんご</td><td>黒星病
うどんこ病
黒点病
褐斑病</td><td>1000～2000倍</td><td rowspan="3">10回以内(塗布は3回以内、灌注は1回以内、散布は6回以内)</td></tr>
<tr><td>腐らん病
モニリア病(実腐れ)
輪紋病
すす点病
すす斑病</td><td>1000～1500倍</td></tr>
<tr><td>白紋羽病</td><td>500～1000倍</td><td>－</td><td>休眠期～生育期</td><td>1回</td><td>灌注</td></tr>
<tr><td rowspan="4">なし</td><td>黒星病
うどんこ病</td><td>1000～2000倍</td><td rowspan="3">200～700ℓ/10a</td><td rowspan="3">収穫前日まで</td><td rowspan="3">6回以内</td><td rowspan="3">散布</td><td rowspan="4">11回以内(塗布は3回以内、休眠期の散布は1回以内、灌注は1回以内、生育期の散布は6回以内)</td></tr>
<tr><td>腐らん病</td><td>1000倍</td></tr>
<tr><td>輪紋病
心腐れ症（胴枯病菌）
胴枯病</td><td>1000～1500倍</td></tr>
<tr><td>白紋羽病</td><td>500～1000倍</td><td>－</td><td>休眠期</td><td>1回</td><td>灌注</td></tr>
<tr><td>マルメロ
かりん</td><td>腐らん病</td><td rowspan="5">1000～1500倍</td><td rowspan="7">200～700ℓ/10a</td><td rowspan="5">収穫前日まで</td><td rowspan="5">6回以内</td><td rowspan="7">散布</td><td>9回以内(塗布は3回以内、散布は6回以内)</td></tr>
<tr><td>かき</td><td>うどんこ病
炭疽病
落葉病
黒星落葉病
すす点病</td><td rowspan="4">10回以内(塗布は3回以内、休眠期の散布は1回以内、生育期の散布は6回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">もも</td><td>灰星病
黒星病
ホモプシス腐敗病</td></tr>
<tr><td>枝折病
うどんこ病</td><td>1000倍</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ぶどう</td><td>灰色かび病
褐斑病
うどんこ病
黒とう病</td><td>1000～2000倍</td><td rowspan="3">収穫45日前まで</td><td rowspan="3">1回</td><td rowspan="3">5回以内(塗布は3回以内、休眠期の散布は1回以内、生育期の散布は1回以内)</td></tr>
<tr><td>晩腐病
芽枯病</td><td>1000倍</td></tr>
<tr><td>苦腐病</td><td>1000～1500倍</td></tr>
</table>

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
おうとう	灰星病 せん孔病 幼果菌核病	1000～1500倍	200～700ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	6回以内(塗布は3回以内、散布は3回以内)
びわ	ごま色斑点病	800倍					7回以内(塗布は3回以内、散布は3回以内、灌注は1回以内)
	灰斑病	800～1000倍					
	白紋羽病	300～500倍	―	収穫後(7月上旬～9月上旬)	1回	灌注	
小粒核果類	すす斑病（うめ）	1000倍	200～700ℓ/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	すももは6回以内(塗布は3回以内、休眠期の散布は1回以内、生育期の散布は3回以内)、その他の小粒核果類は6回以内(塗布は3回以内、散布は3回以内)
	灰星病 環紋葉枯病 葉炭疽病 黒星病 黒粒枝枯病	1000～1500倍					
いちじく	黒葉枯病	1000倍		収穫7日前まで	5回以内		14回以内(塗布は3回以内、灌注は6回以内、散布は5回以内)
	黒かび病 そうか病	1000～1500倍					
	株枯病	500倍	1～10ℓ/株	収穫前日まで	6回以内	灌注	
キウイフルーツ	果実軟腐病	1000倍	200～700ℓ/10a		5回以内	散布	8回以内(塗布は3回以内、散布は5回以内)
あけび（果実）	うどんこ病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
オリーブ	梢枯病			収穫30日前まで	2回以内		5回以内（塗布は3回以内、散布は2回以内）
くり	実炭疽病	1000～1500倍		収穫3日前まで	4回以内		7回以内（散布は4回以内、塗布は3回以内）
りんご（苗木） なし（苗木）	白紋羽病	500倍	―	植付前	1回	10分間根部浸漬	6回以内
もも（苗木）							7回以内（散布は6回以内）
桑（苗木）							3回以内
水稲	ばか苗病	300～500倍		は種前(浸種前又は浸種後)		6～24時間種子浸漬	3回以内(種子への処理は1回以内)
		30倍				10分間種子浸漬	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
小麦	雪腐病	1000～2500倍	60～150ℓ/10a	根雪前	3回以内(出穂期以降は2回以内)	散布	4回以内(種子への処理は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内、出穂期以降は2回以内)
	雪腐大粒菌核病	1000倍					
		250～500倍	25ℓ/10a				
	赤かび病	250倍		収穫14日前まで			
		1000～1500倍	60～150ℓ/10a				
	うどんこ病	1000～2000倍					
	眼紋病	1000倍					
麦類（小麦を除く）	雪腐病	1000～2500倍		根雪前	3回以内(出穂期以降は1回以内)		3回以内(種子への処理は1回以内、出穂期以降は1回以内)
	赤かび病	1000～1500倍		収穫30日前まで			
	うどんこ病	1000～2000倍					
	眼紋病	1000倍					
だいず	紫斑病	種子重量の0.5%	－	は種前	1回	粉衣	4回以内(種子への処理は1回以内)
		700～1500倍	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	
	菌核病	700～1000倍					
あずき	菌核病 輪紋病 炭疽病						5回以内（種子への処理は1回以内、は種後は4回以内）
いんげんまめ	角斑病 菌核病 苗立枯病			収穫7日前まで			
	炭疽病	700～1500倍					
えんどうまめ	褐紋病 褐斑病 灰色かび病	1500～2000倍					
実えんどう さやえんどう		2000倍		収穫前日まで	3回以内		4回以内（種子への処理は1回以内、は種後は3回以内）
えだまめ	菌核病			収穫7日前まで			
らっかせい	褐斑病 黒渋病 灰色かび病	1500～2000倍			4回以内		5回以内（種子への処理は1回以内、は種後は4回以内）
	そうか病 茎腐病	1500倍					
やまのいも	葉渋病 炭疽病	800倍			5回以内		5回以内
やまのいも（むかご）				収穫45日前まで			
ばれいしょ	菌核病	1000～1500倍		収穫7日前まで			5回以内（種いもへの処理は1回以内）

2024年3月13日現在の登録内容
（2024年3月13日 新規登録または登録変更）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
かんしょ	黒斑病	200～500倍	―	植付前	1回	20～30分間種いも又は苗茎部浸漬	1回
	基腐病			貯蔵前～伏せ込み前		30分間採苗用種いも浸漬	
さといも さといも（葉柄）	黒斑病			植付前		20～30分間種いも浸漬	
キャベツ	根朽病 株腐病	1000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内（種子への処理は1回以内、は種後は2回以内）
	菌核病	1000～1500倍					
はくさい	白斑病 炭疽病	1500倍		収穫7日前まで			
	菌核病	1500～2000倍					
カリフラワー		2000倍		収穫前日まで			
ブロッコリー	菌核病 根朽病			収穫14日前まで			
非結球レタス	菌核病 灰色かび病	1500～2000倍		収穫21日前まで			
せり	葉枯病	1500倍		収穫14日前まで			
食用べにばな（花）	炭疽病						
食用ぎく	褐斑病			収穫28日前まで			
セルリー	斑点病			収穫60日前まで			
みつば	菌核病	2000倍		収穫14日前まで ただし、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで			
みしまさいこ	炭疽病	1000倍		収穫30日前まで			
食用ゆり	鱗茎さび症	50倍	―	植付前	1回	球根瞬間浸漬	1回
レタス	菌核病 灰色かび病	1500～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	4回以内（種子への処理は1回以内、灌注は1回以内、散布は2回以内）
	すそ枯病	1500倍					
	ビッグベイン病 菌核病		1.5ℓ/㎡	収穫45日前まで	1回	灌注	
にら	白斑葉枯病 乾腐病	1000倍	3ℓ/㎡	収穫21日前まで			2回以内（種子への処理は1回以内、は種後は1回以内）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>希釈倍数</th><th>使用液量</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>メロン</td><td>つる枯病
陥没病
菌核病</td><td>1500～2000倍</td><td rowspan="19">100～300ℓ/10a</td><td rowspan="12">収穫前日まで</td><td>3回以内</td><td rowspan="19">散布</td><td>5回以内（種子への処理は1回以内、塗布は1回以内、散布は3回以内）</td></tr>
<tr><td>かぼちゃ</td><td>白斑病</td><td>1000倍</td><td rowspan="11">5回以内</td><td rowspan="10">6回以内(種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)</td></tr>
<tr><td>すいか</td><td>炭疽病
菌核病</td><td rowspan="8">1500～2000倍</td></tr>
<tr><td>きゅうり</td><td>菌核病
黒星病
炭疽病
うどんこ病
灰色かび病
つる枯病</td></tr>
<tr><td>うり類（漬物用）</td><td>炭疽病
うどんこ病
灰色かび病
つる枯病</td></tr>
<tr><td>にがうり</td><td>炭疽病
斑点病</td></tr>
<tr><td>トマト
ミニトマト</td><td>葉かび病
灰色かび病
菌核病</td></tr>
<tr><td>なす</td><td>黒枯病
灰色かび病
菌核病</td></tr>
<tr><td>アスパラガス</td><td>茎枯病
立枯病</td><td>1000倍</td><td>収穫開始7日前まで</td></tr>
<tr><td>てんさい</td><td>褐斑病</td><td>2000～3000倍</td><td>収穫7日前まで</td><td>5回以内</td></tr>
<tr><td>ピーマン</td><td>黒枯病
炭疽病</td><td>4000～6000倍</td><td rowspan="3">収穫前日まで</td><td rowspan="5">3回以内</td><td rowspan="5">4回以内（種子への処理は1回以内、は種後は3回以内）</td></tr>
<tr><td>ズッキーニ</td><td>うどんこ病</td><td rowspan="3">1500倍</td></tr>
<tr><td>オクラ</td><td>葉すす病</td></tr>
<tr><td rowspan="3">いちご</td><td rowspan="2">うどんこ病</td><td>収穫開始21日前まで</td></tr>
<tr><td>1000倍</td><td rowspan="2">—</td><td>株冷蔵栽培の株冷蔵前</td><td>5分間株浸漬</td></tr>
<tr><td>萎黄病</td><td>300～500倍</td><td>仮植前</td><td>1時間苗根部浸漬</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>3ℓ/㎡</td><td>仮植時及び仮植栽培期</td><td>灌注</td></tr>
</table>

2024年3月13日現在の登録内容
（2024年3月13日 新規登録または登録変更）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
ねぎ	萎凋病 黒腐菌核病 小菌核病 小菌核腐敗病	1000倍	100～ 300ℓ /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	5回以内（種子への処理は1回以内、苗根部浸漬及び苗床灌注は合計1回以内、散布及び株元散布は合計3回以内）
	萎凋病 黒腐菌核病 小菌核腐敗病	250倍	チェーンポット1冊 (30×60cm、土壌量約5ℓ) 当り0.5～1ℓ	定植直前	1回	苗床灌注	
	萎凋病 小菌核腐敗病	20倍	―			3分間苗根部浸漬	
		200倍				30分間苗根部浸漬	
たまねぎ	小菌核病 灰色腐敗病	500～1000倍	100～ 300ℓ /10a	収穫前日まで	6回以内（但し定植後は5回以内）	散布	7回以内（種子への処理は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、無人航空機散布は3回以内、散布は5回以内）
	灰色腐敗病	500倍	―	定植直前		5分間苗根部浸漬	
たらのき	芽枯症	2000倍	0.1～0.3ℓ /㎡	伏せ込み後萌芽前 但し、収穫21日前まで	1回	駒木散布	3回以内（伏せ込み前は2回以内、伏せ込み後は1回以内）
	そうか病	1500倍	200～ 700ℓ /10a	伏せ込み前 但し、収穫60日前まで	2回以内	散布	
らっきょう	乾腐病	1000倍	700mℓ/㎡	収穫7日前まで	3回以内	株元灌注	3回以内
ししとう	黒枯病	10000倍	100～ 300ℓ /10a	収穫前日まで		散布	
れんこん	褐斑病	1500倍					
葉たまねぎ	黒点葉枯病	1000倍		収穫14日前まで			4回以内（種子への処理は1回以内、は種後は3回以内）
甘草	株枯病	200倍	―	植付前	1回	30分間苗浸漬	1回
しょうが	いもち病 白星病	1000倍	100～ 300ℓ /10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
なたね	菌核病			収穫21日前まで	3回以内（開花後は2回以内）		3回以内（開花後は2回以内）
	雪腐菌核病			根雪前			
茶	炭疽病 白星病 褐色円星病 輪斑病	1500～2000倍	200～ 400ℓ /10a	摘採7日前まで	1回		1回
	黒葉腐病	1500倍					
まめ科牧草	菌核病	2000倍	100～ 300ℓ /10a	根雪前			
いね科牧草	雪腐大粒菌核病	1500～2000倍			2回以内		2回以内
ばら	うどんこ病 黒星病			―	5回以内		5回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
シクラメン さくらそう	灰色かび病	1500～2000倍	100～300ℓ/10a	―	5回以内	散布	5回以内
ゆり	葉枯病 茎腐病						
きく	褐斑病						
カーネーション	芽腐病						
けいとう	茎腐病 輪紋病						
ほおずき きんせんか	半身萎凋病						
りんどう	花腐菌核病	1500倍					
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の0.1%	―	植付前 又は 貯蔵前	1回	球根粉衣	
べにばな	炭疽病	1500倍	100～300ℓ/10a	―	2回以内	散布	
観賞用アスパラガス	茎枯病	500～1000倍			5回以内		
花き類・観葉植物（トルコギキョウを除く）	菌核病	1500倍					
トルコギキョウ	斑点病						
樹木類	炭疽病	1000～2000倍	200～700ℓ/10a	発病初期			
	褐斑病（つつじ類） 幼果菌核病（さくら）	1000～1500倍					
	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症（シュードサーコスポラ菌） 紫かび病（かし） 黒点病（じんちょうげ） 褐斑病（ぼけ） マルゾニナ落葉病（ポプラ） 枝枯病（いぬつげ） 赤枯病（すぎ）	1000倍					
たばこ（苗床）	腰折病	1000～2000倍	2ℓ/㎡	苗床期	2回以内		2回以内
	黒根病	1000倍					
桑	裏うどんこ病 汚葉病	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	―	3回以内		3回以内
	輪斑病	1000～1500倍					

2024年3月13日現在の登録内容
（2024年3月13日 新規登録または登録変更）

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
トマト	温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所	灰色かび病	100～200g/10a	5ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	常温煙霧	6回以内(種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)

製品写真

最新の登録内容はこちら